

有馬朗人さん死去

静岡文化芸術大理事長

90歳 元文相



2010年、文化勲章受章の喜びを語る有馬朗人さん＝浜松市中区

静岡文化芸術大理事長、原子核物理学で文相兼科学技術庁長官を務めた元東京大学長の有馬朗人（ありま・あきと）さんが死去したことが7日、分かった。関係者によると、東京都内の自宅で「亡くなっているのが同日午前、見つかった。90歳。大阪府出身。」

＝関連記事33面へ

1942年から約5年間、浜松市に住み、浜松西小、浜松一中（現浜松北高）で学んだ。53年、東大理学部卒。東大助手、助教授を経て75年に教授。89、93年に学長を務めた。93、98年に理化学研究所理事長。2010年から静岡文化芸術大理事長。中央教育審議会会長

発足した小渕恵三内閣で文相に就任、その後当時の科技庁長官も兼務した。参議院議員は1期で引退、科学技術館の館長として理科教育の普及に尽力した。俳誌「大為」を創刊、主宰するなど俳人としても知られ、国際俳句交流協会会長を務めた。俳句の国連教育科

学問における父 川勝平太知事の話 日本にとって大きな損失。私にとっては有馬先生あつての県政だった。常に前向きでやまらまいか精神にあふれていた。文部相を務めたからと偉ぶるところは全くなかった。学問における父として慕ってきただけに心の空（くうげき）をどうように埋めるかという思

だった96年に、学校週5日制の実施など「ゆとり教育」の導入を求める答申をまとめた。03年、静岡県教委の「確かな学力」育成会議の座長に就任した。静岡文化芸術大の理事長職は3期目で、任期は22年3月までだった。98年の参院選で、自民党の比例代表名簿1位で当選した。直後に

浜松を愛した方 熊倉功夫静岡文化芸術大前学長の話 偉大な物理学者でありながら郷土を大事にされ、浜松を愛した方だった。一見無秩序に見えることも、先生の中では理路整然と整理されていた。大学運営には大所高所からの確かなドバイスをいただいた。本当に残念だ。